

平成23年4月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

「キューポラのある街」は生き続ける

館長 矢部保雄

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

東日本大震災の発生や福島第1原子力発電所事故という危機のなかにこの国はある。多くの人々がそれぞれの大切なものを失った。

吉永小百合さんが私の大切にしていること、ということで「キューポラのある街」について述べている。

「キューポラのある街」は1962年（昭和37年）に公開された浦山桐郎監督の映画である。早船ちよの原作で、鑄物の町・川口が舞台である。吉永さんは、「川口へロケに行くと、鑄物工場は高温の炎が飛び散る危険な場所でした。仕事ができなくなってしまうような火傷やけがと隣り合わせの環境です。・・・そこで汗を流して一生懸命働いている方たちの姿を目にして、自分が体験したのとは違う貧しさがあるのだなということを知りました。・・・ロケをしながら肌身で感じられるようになっていったのです。」と述べている。

吉永小百合ふんする主人公ジュンのひたむきさに当時の多くの日本人が励まされた作品である。

彼女は自分が共感できない役はできないと言っている。この人の生き方、「いいな」「すきだな」とおもえないと演じられない・・・、役と自分との中間点で作り上げて行く感じとも述べている。

その映画のロケ地川口は今、マンションが林立し、昔の面影はない。

川向こうの墨田区押上地区に建設が進みすでに東京タワーを超え634メートルの東京スカイツリーをマンション群から望むことができようとは当時想像もできない変わりようである。

当館の「ゆめ体験ひろば」でのベーゴマは川口市のベーゴマを使用している。

昔我が家のお風呂を改修したときに、五右衛門風呂を買い求めに川口の街を訪ねたことがあったが、丁度映画の公開の頃であったと思う。その思いでの五右衛門風呂も今はない。

JRの広報キャラクターの吉永さんは今も各地を訪ねていることであろうが、映画のロケ地川口にはことのほか強い思いがあるのであろう。

「キューポラのある街」のように、これからも、自分の出演した作品がみなさんのところに生き続けてくれたら、映画に出演する者としてこんな幸せなことはないと述べていることから分かるように。

さて、今年平成23年は当館で御講演いただいた作家和田竜氏の小説「のぼうの城」の映画上映（秋）の年である。ロケ地行田市と関係者の将来はどのようなものであろうか楽しみである。

結びに、このたびの被災地の再生を祈るとともにJR広報キャラクターの吉永さんが一日でもはやく訪ねることができるようになることを願わずにはられない。

友の会トピックス

1. 博物館の人事異動について <敬称略・()内は前職>

<退職>

- ◎石井洋子 (副館長)
- ◎柳 正博 (副館長)
- ◎山田 実 (学習支援担当学芸主幹)

<転出>

- | | | |
|------------------------|-------|---------------|
| ◎生涯学習文化財課主幹<さいたま文学館勤務> | 大久根 茂 | (常設展示担当学芸主幹) |
| ◎文書館学芸主幹<史料編さん担当> | 兼子 順 | (特別展示担当学芸主幹) |
| ◎文書館主任学芸員<古文書担当> | 加藤かな子 | (特別展示担当主任学芸員) |
| ◎上尾県税事務所管理担当主任 | 佐藤みどり | (総務担当主任) |
| ◎さいたま県土整備事務所総務担当主任 | 遠藤浩文 | (施設担当主任) |

<転入>

- | | | |
|----------------|-------|---------------------|
| ◎副館長<学芸担当> | 浅野晴樹 | (生涯学習文化財課副課長) |
| ◎副館長<総務・施設担当> | 萩元信隆 | (市町村支援部部付副参事) |
| ◎常設展示担当学芸主幹 | 利根川章彦 | (さきたま史跡の博物館学芸主幹) |
| ◎総務担当課長 | 芝崎 剛 | (総合教育センター担当課長) |
| ◎施設担当主事 | 高橋諒太 | (大宮商高(定)主事) |
| ◎常設展示担当主任学芸員 | 渡 政和 | (文書館主任学芸員) |
| ◎常設展示担当学芸員 | 浦木賢治 | (新採用) |
| ◎特別展示担当学芸員 | 根ヶ山泰史 | (新採用) |
| ◎企画担当主事 | 栗原芳典 | (臨任) |
| ◎学習支援担当学芸員 | 増山聖子 | (臨任) |
| ◎学習支援担当学芸員 | 大和田 瞳 | (臨任) |
| ◎資料調査担当専門員兼学芸員 | 大和 修 | (さきたま史跡の博物館専門員兼学芸員) |
| ◎学習支援担当専門員兼学芸員 | 山田 実 | (再任用) |

<館内配置換>

- | | | |
|--------------|-------|---------------|
| ◎常設展示担当学芸主幹 | 三田村佳子 | (資料調査担当学芸主幹) |
| ◎特別展示担当主任学芸員 | 大明 敦 | (常設展示担当主任学芸員) |
| ◎学習支援担当主任学芸員 | 伴瀬宗一 | (特別展示担当主任学芸員) |
| ◎特別展示担当主任学芸員 | 西口由子 | (常設展示担当主任学芸員) |

<任期満了退職者>

- | | |
|----------------|------|
| ◎常設展示担当専門員兼学芸員 | 沼野 勉 |
| ◎企画担当学芸員 | 藤崎温美 |
| ◎学習支援担当学芸員 | 堀内紀明 |
| ◎学習支援担当学芸員 | 小林良美 |
| ◎学習支援担当学芸員 | 齋藤航太 |
| ◎資料調査担当学芸員 | 吉田幸一 |

これまで、当会をご支援いただき、このたび博物館を離れられる皆さまに、これまでのご芳情に対し心からのお礼を申し上げます。それぞれの場所でのご活躍をお祈りし、ますますのご友誼をお願い申上げる次第です。

2.このたびの東日本大震災について

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会といたしまして、このたびの東日本大震災において、被害を受けられた方々に対して、衷心からのお見舞いを申し上げます。

被災者の方々への気持を同じくする会員の皆さまの善意の募金をとりまとめさせていただき、被災地へお送りさせていただきたく、考えております。

お集めさせていただいた資金を、どちらへお送りさせていただくかは未定ですが、被災地で、文化財保護などに携わっておられる団体への寄付として、文化財の修復、保存などにあてていただくなど、「友の会らしい」お送り先とさせていただくこととして、もし、それが不可能でしたら、赤十字社への寄金とさせていただきます。

募金をお集めさせていただく機会といたしましては、当会の主催するイベントの折とさせていただき、振込み手数料のご負担がございますのは申し訳ないところでございますが、当会口座へのお振込みもお受けさせていただきます。

☆口座記号・番号は 00180=5=■721432 加入者名 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会
(上記■は何もかかない空白がーマスあることを示します)

☆金額はご自由です。☆通信欄に「震災寄付金」とお書きください。

会員の皆さまの善意と当会会計からの資金を合わせて寄付金とさせていただきたいと考えております。皆さまのご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

3.イベント参加のご連絡について

かさねてお願いを申し上げます。何度もお願ひしておりますが、当会の講演会へのご参加お申込みは「往復ハガキ」によりお願いいたします。まだまだ「片道ハガキ」によるお申込みも散見されます。よろしくお願ひ申し上げます。

なお、見学会へのお申込みは「片道ハガキ」となります。この場合、特にお断りしない場合は、ご参加いただけるということをお含みください。

4.さらなる新会員募集にご協力ください

昨 22 年度は博物館のリフォーム工事と、震災による休館とで、新入会員獲得のチャンスが、あまりありませんでした。

念願の会員数 500 達成も遅れています。春、新しい年度が始まる「いま」が、新しく入会しようと考えておられる方が多いときです。

あなたの周囲にも、きっと、そういう方が何人もおられるはずです。そして、どんな宣伝にもまして、有効なのは愛用者からのクチコミです。友の会のメリットをご存知いただいている「あなた」からのおすすめのひとことが新しい会員さんの獲得にイチバンなのです。

周囲の方への「お誘いのひとこと」！ あなたの力強いご協力をお願い申し上げます！

5.今後のイベントスケジュール

◎4月24日(日) 講演会「万葉集の成立」 國學院大學講師 城崎陽子先生

◎5月29日(日) イベント「ごぜ唄語り」 民謡・ごぜ唄・三味線奏者 月岡祐紀子先生

◎6月4日(土) 見学会「群馬県・かみつけの里・絹の里・上野国分寺跡など」

ご案内

井上尚明・博物館主席学芸主幹

ごぜ唄語り

旅から旅へ。瞽女さんの唄が流れる、瞽女さんの三味線が流れる

高校生のときに出会った瞽女さんの唄、三味線に感銘を受けたのがキッカケで、いまは瞽女唄のソロコンサート、民謡の演奏会、和楽器のオーケストラグループの一員として～など、幅広く活躍中の月岡祐紀子さんをお迎えして、お話と演奏のひとつです。

民謡・ごぜ唄・三味線奏者

月岡祐紀子さん

演目 門 付 唄

葛の葉の子別れ など

ところ 埼玉県立歴史と民俗の博物館・講堂

とき 平成 23 年 5 月 29 日 (日)

午後 1 時 30 分 ~ 3 時

参加費 無 料

ご参加のお申込みは往復ハガキに住所、氏名・電話番号・友の会会員の場合は会員番号を明記、(返信先も明記ください)
5月25日(水)までに〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町
4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員 150 名に
なり次第、締切させていただきます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成23年5月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

— 縄 文 — 土 器 に 魅 せ ら れ て

理 事 松 岳 俊 一

話はずいぶん古くなりますが、東北新幹線が開通して間もなくの頃です。私が加わっている山の会でも、一度は東北の山にも登ってみたいという話が持ち上がり、《霊峰 早池峰山》ということになりました。そして、その下山後のことです。

とある知人から「早池峰山の麓、大迫（おおはざま）には、人には知られていないが、素晴らしい縄文土器が保存されている。町（村？）の財政事情から、資料館としては公開されないままになっている。機会があったら一度は見せてもらったらいよいよ！」という耳寄りの話を聞いていました。というので、役場に電話を入れ、その保管室を見学させてもらうことになりました。山下りに意外と手間取り、約束の時間より遅れてしまいましたが、担当の方は快く迎えてくれ、早速、案内をして下さいました。そこは、保管室というよりも、一寸した学校の体育館風の建物です。夕方のうす暗くなりかけた時分、ドアを開けると、その建物の壁面一杯にそれは大きな縄文土器が所狭しと並べ置かれています。数の多さや大きさだけでなく、一つ一つの土器面に盛られ、貼り付けられ、彫られている文様の多様さに、目も心もぐんと引き付けられてしまいました。さらに、うす暗い照明の中で、それらの土器群から異様な光が発せられ、鈍い輝きを放っているように感じられたのです。それらの存在そのものが私達を圧倒したのです。表現すべき言葉を失うというのはこんな場合に使うのでしょうか。私達は異次元の世界に没入してしまったという思いが強くなりました。

乱暴な言い方ですが、弥生から現代まで、私たち日本人の多くは、「土地」や「お金」や「権力」に組織されてきました。そして生産活動に従事しながら、生活を保ってきました。そのため、封鎖された組織から、「心の自由を求めての文化」が構築されてきたのだとすると、縄文土器群に表現されているものは、大空のように無限な大地を自由に闊歩し、自然の恵みを楽しみながらも、畏怖するという「心の在りよう」そのものの表現ではないかと思われてなりません。

縄文時代の人々が「何を考え、何を願い、訴えようとしていたのだろうか」という想念が心の中を駆け巡りました。

既に約束してあった時間は大幅に延びてしまっていたのですが、気持の高まりを抑えきれず、館内全ての土器群を見てしまうという結果になりました。

室外に出てみると、もう宵闇。それなのに案内して下さいました方の風韻が出てきたのはそれから。解説も止まらなくなってきました。「これから、これらの土器群が出土した畑に行ってみましょう。」という誘いの言葉です。私達の方は、山の疲れと素晴らしい土器群に遭遇することができたという感動で十分だったのですが、あまり我が儘も言えず、件の畑まで同行することになりました。すると、シャベルやスコップと箱までが用意されています。さっそく、「そこを少しだけ掘ってください」という指示です。もう星が出ているのに……。まあ、まあということで掘り出すと、土器片が出てくる、出てくる、ザクザクと、です。掘り出された土器片や骨角類を整理箱に入れながら、「太古の昔、この畑の辺りで人々は何をしていたのだろうか」と、また空想の世界へと誘われるのでした。

*今では、大迫には立派な資料館が建てられているとのこと。

友の会トピックス

1.5月29日(日)午前は当会の定時総会

ぜひ、お越しください。あなたのための、みんなのための、博物館のための「友の会」を、さらに良くしてゆくために！

29日(日)午前10時から。博物館講堂にて、定時総会を開催いたします。

このニュースにも、昨年度の収支報告書を掲載させていただきました。本年度の事業計画については、決まったものを逐次発表させていただいております。これらを資料として総会にご参加いただきますようお願いを申し上げます。

2.東日本大震災義援金について

被災者の方々への気持を同じくする会員の皆さまの善意をとりまとめさせていただき、「友の会」の名前で被災地へお送りさせていただきたいと考えております。

皆さまには、あちこちで既に、募金に応じられておられることと思います。その上でのご負担となりますが、お気持ちに合うなら、よろしくお願いを申し上げます。

被災地で、文化財保護などに携わっておられる団体への寄付として、文化財の修復、保存などにあてていただくなど、「友の会」らしいお送り先とさせていただきます。それが不可能でしたら赤十字社への寄金とさせていただきます。

すでに4月の講演会の際にご寄付いただいたり、当会口座へご送金いただいたりした皆さまにお礼を申し上げます。

口座へのお振込みは次のとおりです。

☆口座記号・番号は 00180=5=■721432 (■は何もかかないブランクが1マスあることを示します) ☆加入者名は「埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」

☆金額はご自由です。☆通信欄に「震災寄付金」とお書きください。

3.今後のイベントについて

5月29日(日)午前 = 当会年次総会

午後1時半=講演会「ごせ唄語り」 お話・演奏 月岡祐紀子さん

6月4日(土)見学会 「古代・先進の上毛・探案」案内 主席学芸主幹 井上尚明氏

7月24日(日)講演会 「古墳時代の最後」 群馬大学講師 右島和夫氏

= 牽牛子塚など八角形墳の謎など古墳時代末期の古墳についてのお話 =

8月<日程未定>見学会 「出土品展と太田天神山古墳」

= 昨年度、県内の発掘の重要な遺物をさきたま史跡の博物館で見て、関東最大の大きさの天神山古墳を太田市で =

9月18日(日)講演会 「邪馬台国・畿内遺跡・磐基古墳」 明治大学名誉教授 大塚初重氏

= 邪馬台国は、畿内にあったという結論にはまだ早いのか =

10月1日(土)講演会 「武蔵の国学者たち」 跡見学園女子大学講師 中川和明氏

= 時代の転換期に多彩な活動を繰り広げた武蔵国の国学を見直す =

11月13日(日)見学会 「芝山はにわ祭りと房総風土記の丘」

= 古墳を舞台に古代人が登場するはにわ祭りと房総風土記の丘を見学します =

12月<詳細未定>講演会 「中世を道から読む」

1月<詳細未定>見学会 「白洲次郎と正子の住んだ武相荘(町田市)」

2月<詳細未定>見学会 「地酒づくりの現場とその周辺(県北)」

2月<詳細未定>見学会 「発掘現場見学会」

3月<詳細未定>講演会 「関東の戦国時代」

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会
平成22年度収支報告書

自 平成22年4月 1日
至 平成23年3月31日

| 収入の部 | | | |
|-------------|-----|-----------|-----|
| 項目 | 予算高 | 決算高 | 備考 |
| 年会費 | | 820,000 | (キ) |
| 半年会費 | | 28,000 | (ク) |
| 事業収入 | | 3,625,590 | (ケ) |
| 雑収入 | | 411 | |
| 合計(ア) | | 4,472,001 | |
| 支出の部 | | | |
| 項目 | 予算高 | 決算高 | 備考 |
| 運営費関連 | | | |
| 会議費 | | 24,745 | |
| 旅費交通費 | | 19,770 | |
| 備品・用品 | | 174,307 | |
| 通信 | | 427,054 | |
| 印刷 | | 16,425 | |
| 交際費 | | 10,000 | |
| 小計 | | 672,301 | |
| 事業費関連 | | | |
| 講演会 | | 205,870 | |
| 見学会 | | 2,558,280 | |
| イベント | | 317,348 | |
| 小計 | | 3,081,498 | |
| 負担金 | | 94,000 | (コ) |
| 合計(イ) | | 3,847,797 | |
| 当期収支残高(ア-イ) | | 624,204 | (ウ) |
| 前期繰越金 | | 920,888 | (エ) |
| 前受金 | | 724,000 | (オ) |
| 次期繰越金(ウ+エ) | | 1,544,872 | (カ) |

| 資金管理明細 | |
|-------------|-----------|
| (23/3/31現在) | |
| 預金残高 | 1,489,031 |
| 繰込口座残高 | 650,000 |
| 現金 | 143,841 |
| 未収金 | 6,000 |
| 合計(オ+カ) | 2,288,872 |

＝注＝

これは5月29日の総会でご承認をいただくためにご提案する収支報告書(案)です。

(オ) 3月末までの23年度会費収入

(キ) 4～9の年会費410名分 (ク) 10～11月の半年会費26名分 (ケ) 見学会・奈良ツアー・花王助成金などの収入 (コ) 会員の博物館観覧料の当会負担分

(カ)の中には3月末までに使用していない花王助成金490,000円を含んでいます。この結果、年度末繰越金の実態は前年度920千円から、今年度1,050千円へ、130千円増加していますが、3月に実施予定の講演会が2回中止になった結果ともいえるものです。

古代・先進の上毛・探索

武蔵の古代文化の多くは東山道の上毛から入ってきたのです。大
国・毛野はヤマトを怖れず、素晴らしい文化を発展させました。
上毛の中心地を巡って、その文化の名残を楽しむ一日です。

実施日 平成 23 年 6 月 4 日 (土)

集 合 午前 8 時・JR大宮駅西口 ソニックビル西側

午前 9 時半・熊谷駅南口 ロータリー

参加費 6,000 円 (バス代・昼食代など)

ご案内 博物館・主席学芸主幹 井上尚明 先生

コース 大宮＝熊谷＝三ツ寺 I 遺跡 (古墳時代・豪族
居館跡)＝かみつけの里・保渡田古墳群 (二子山・八
幡塚など)＝日本絹の里＝三津屋古墳 (こんなところに八
角形墳)＝上野国府あと＝上野国分寺・国分尼寺あと
＝山王廃寺＝総社古墳群 (末期の方墳で石室内に入れ
る宝塔山、蛇穴山など)＝熊谷＝大宮(帰着予定:6時30分)＝行先変更あり＝

◎ご参加のお申込みは、ハガキに住所・氏名・電話番号・会員番号・
参加イベント名・集合は大宮か熊谷かを明記し、5月22日(金)まで
に、〒331-0805 さいたま市北区盆栽町 378-2-702 滝沢由美子へ。
会員限定ですが、ご家族、お友達のご参加可。同じバスご希望の方は
連名で。集合場所の地図ご希望の場合は、その旨、ハガキにご記入く
ださい。◎お問合わせ、間際、当日の緊急電話 090-4139-2740 宮川

平成23年6月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

自己紹介を兼ねまして

副館長 浅野 晴 樹

この度、県立歴史と民俗の博物館に異動してまいりました浅野と申します。

1978年に埼玉県に採用になり、最初は嵐山町にある歴史資料館（現在の嵐山史跡の博物館）の勤務でした。歴史資料館には、採用後7年ほど勤務した以外に、2002年度から3年ほど再度勤務する機会を得ましたが、それ以外の20数年間は、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と県庁勤務の繰り返しでした。そのような状況ですので、歴史と民俗の博物館勤務は初めてのことです。

話は変わりますが、先日、テレビで「ケンミンショー」という番組を見ておりましたら、「からすみ」が取り上げられていました。「からすみ」がボラの卵巣を塩漬けしたものと知ったのは、二十歳を過ぎてのことでした。私の知っている「からすみ」は、ひな祭りに母親が作る「ういろう」に似たお菓子でした。「からすみ」をお菓子と認識するのは、岐阜県東濃地方から長野県木曾地方にかけての地域のようなようです。そんな訳で、私は岐阜県中津川市と言うところの出身でございます。

岐阜県東濃地方は、古くから陶器生産が盛んなところですが、多治見・土岐両市を中心とする地域の陶器生産量は極めて高く、その全国シェアは抜きん出ております。私が子供のころ、裸足で田植えをしておりまして足に陶器の破片がよくあたりました。実家の周辺の田畑には、鎌倉時代の陶器を生産した窯が造られていたのです。そのような実体験のなかで、次第に考古学に興味を持つようになりました。

というような訳で、専門はと問われると恥ずかしい限りですが、考古学と答えております。考古学でも平安時代末から戦国時代、いわゆる中世と言われる時期を専門としております。

常々思うのですが、生まれ育った田舎に対しては、年を取りますとますます郷愁にかられますが、自分の子ども達にとって、生まれ育った埼玉が「田舎」であり「ふるさと」なのです。

埼玉都民、千葉都民などと言われますが、なかでも埼玉都民の埼玉に対する定着率、愛着度が低いことが何かの統計にございました。埼玉の人口は、この半世紀の間に確実に埼玉以外から流入された方が半数を超えているはずですが、しかし、先ほど申し上げたようにその子ども達は、間違いなく埼玉の子どもなのです。

埼玉の歴史をこのような子ども達に確実に引き継いで行くために、また埼玉を第二の「ふるさと」とする方々に一層の御理解を深めていただくためにも、重要な装置として博物館はあるものと考えております。

友の会トピックス1

1. 今後のイベントスケジュール

○7月23日(土) 講演会「終末期の古墳とは？」講師 群馬大学講師 右島和夫先生

○8月 バス見学会「出土品展・妻沼聖天院・太田天神山古墳」

＝県内の発掘現場で見つかった主要な遺物の展示をさきたま史跡の博物館で見学し、その後、修復なった妻沼聖天院の豪華絢爛の彫刻と利根川を渡った太田市の太田天神山古墳・女体山古墳を回ります。天神山古墳は全長210Mという天皇陵なみ、関東地方では最大の大きさ。しかも天皇陵と違って上へ登れる楽しみが。

○9月18日(日) 講演会「邪馬台国・纏向遺跡・箸墓古墳」講師 明治大学名誉教授 大塚初重先生

＝これで、いよいよ、邪馬台国の所在地が決まるのでしょうか？＝

○10月1日(土) 講演会「武蔵の国学者たち」講師 跡見学園女子大学講師 中川和明先生

＝江戸時代末期に、県内にいた国学者たちにスポットをあて、歴史の闇に埋もれた、彼らの思想と動向を解明するお話＝

○11月13日(日) バス見学会「芝山はにわ祭りと房総風土記の丘」

＝本当の古墳を舞台に古代人が登場するはにわ祭りと房総風土記の丘見学です＝

○12月 講演会「中世を道から眺む」 詳細未定

2. イベントへのお申込みについて

上記の講演会、見学会のご参加お申込みにつきましては、原則としましては次のとおりとなりますので、ぜひ、ご理解くださいますよう、お願いを申し上げます。

☆講演会の場合

会員以外に一般の方もご参加いただく形式にて行います。このため、友の会のことを十分ご理解いただいている場合もありますので、ご参加お申込みは「往復ハガキ」でお願いしております。

☆見学会の場合

会員・ご家族・ご知人の方のみ、ご参加いただける形式ですので、「通常ハガキ」によるお申込みで、ご参加をお断りする場合のみ、当会の方から「お断り」のご連絡をします。連絡がない場合はご参加「オーケー」です。

◎当会には事務担当者がおられませんので、手続きを簡略化しています。ご了承のほど、お願いいたします。

友の会トピックス 2

3. 友の会の震災義援金について

友の会の皆さまからご寄付いただきました義援金（2度の講演会時の募金箱へのご寄金、ご送金総額56,767円）は、友の会会計からと合わせて10万円として、陸前高田市古文書研究会へお送りさせていただきます。

陸前高田市はご承知のように大変な災害にあわれ、市立博物館は館員6名が全員死亡か行方不明になられ、展示品、収蔵品も流されたり、汚れたり、大変な状態のようです。自然科学系の標本類は全国の博物館が分担して洗浄、整理をされておられます。

そして、収蔵されておりました岩手県指定文化財の「気仙郡大肝入吉田家文書」（寛延3～慶応4＝明治元年）全95冊、枚数にして31,639枚の解読を主たる活動としておられた古文書研究会は13名の会員のうち3名が津波の犠牲となられ、また、慶応年間の2年分を残して、すでに解読された上記の文書の解読原稿、CDなどはすべて流失してしまったとのことです。

しかし、残された10名の会員の方々は誰ひとり諦めず、残った郷土史料を瓦礫の中から拾い出して、もう一度、解読と保存に取り組もうとされています。

「また、一からの出発」を誓い、「今、保存しなければ、貴重な郷土の史料が津波に負けてしまう」「先人の努力に対し申し訳ない」と頑張る方々の活動資金として活用していただければ、当会会員の皆さまのご意向にも添うものと考えました。

そういうことで、皆さまの義援金は、陸前高田市古文書研究会へお送りいたしますことをご報告させていただきます。ご協力をいただきましたことに、心からのお礼を申上げる次第です。

4. 花王プロジェクト、今年も、ただいま、進行中

2010年度も花王・コミュニティミュージアムプログラムの助成金を50万円いただき、「博物館の 프로모ーションビデオ」作りに挑戦しています。今回は特に「岩槻区民の皆さま」に博物館へ来ていただくためのビデオです。有志の奮闘にご支援をお願いいたします。

5. 友の会は博物館からヒトもオカネもいただいていません

デパートの「友の会」式の営業組織ではありません。博物館を愛するヒトたちの、博物館の応援団です。友の会の受付は土・日・祭しかありません。その不便さを会員の皆さまにもおしのびいただきながら、極上の知的イベントを提供してまいりました。さらに皆さまのご協力、ご支援をお願いいたします。

終末期の古墳とは？

昨年、話題となった飛鳥の「牽牛子塚古墳」は天皇陵なのか？ 同古墳を発掘されたご経験もある右島先生に、古墳が造られなくなる時代の「古墳」についての最新のお話をお聞かせいただきます

講師 右島和夫先生

=群馬大学講師・元群馬県立歴史博物館学芸課長=

と き 平成23年7月23日(土)

午後1時半～3時

ところ 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

<東武野田線・大宮公園駅下車5分>

ご 参 加 無 料

ご参加のお申込みは往復ハガキに講演名・お名前・ご住所・お電話番号・友の会会員は会員番号を明記、返信あて先などご記入の上、7月16日(土)までに、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員150名になり次第締切。

埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成23年7月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

なぜ「法整備の棚卸」が必要なのか？

理事 上田 彰 一 郎 (大宮区)

東日本大震災の新聞・テレビといったマスメディアの報道で真っ先に感じたことは、被災地での土地の所有権の内なる声(何をどうすればよいか…)と津波にあった古文書の修復活動をどのように支えるべきかを考えることでした。

東日本大震災の被災状況や対応状況について、メディアは「基礎自治体が被災で機能しておらず、津波で家屋などが流され、戸籍地籍が分からず、そのデータも残されていないところがあるため、従来の仕組みでは復旧・復興が困難」との見解を示していました。土木業界の団体も「戸籍や地籍などの問題をソフト面から配慮して、新たな復旧・復興の仕組みを構築する必要がある」と訴えていました。行政では、もっと具体的に「復興には、法整備や財政面であらゆる手を打たねばならない」という今後の取組みを示しました。このことは、たぶん、被災地の復旧・復興のためには、個人が持っている所有権も制限しなければ、その効果が期待できないと考えているように思われました。一体なぜこの緊急事態の最中に、このような法整備まで考えるのか、理解しにくいことでもありました。

わたしは、次のように考えました。わが国の底流には幕末から明治維新にかけての運動を経て、時代が明治に入ったときに、西洋並みの法整備を緊急に行った、という史実があったが、一世代前の法整備面の脆弱性(誰かが管理していてもその土地が国有地として台帳に記載されてしまっているとか、土地登記簿にもない、いわゆる脱藩地の存在など)が震災で一挙に露呈してしまったのが原因の一つかなということです。

まともな法整備をするためには、史実を忠実に理解し、再評価する必要があります。そのためには「道頓堀裁判」というものを棚卸し、障壁となりそうな事を少しでも早く察知し、理解と再評価することで、意外なことが明白となったりして、結果、東日本大震災の復興・復旧の対策に少しは役に立つのではないかと思ったことでした。

道頓堀裁判とは「安井道頓の子孫が1965年に道頓堀の河川敷地の所有権を主張して、国、大阪府、大阪市を相手取り裁判を起こしたが、1976年に請求を棄却する判決が出された」というもので、この裁判は、もし、原告の訴えが通り、道頓堀の河川敷地が個人のものとなり、それを埋め立てて更地とすれば、地価の高い一等地が安井家のものになってしまう—ということで当時話題となりました。

裁判は大阪地方裁判所に提起され、10年半かかっています。

争点は三つ。安井氏は道頓堀川の河川敷地に所有権をもっていたのか、江戸時代を通じて、安井氏の道頓堀川に対する関わり方は、所有権に基づく権利行使であったか、江戸時代の土地に対する関わりあい方は、明治以降の土地所有制度とどう繋がるか—です。

判決は、昭和51(1976)年に出されました。その内容は「道頓堀川は原告の先祖の努力により開削され、今日の道頓堀繁栄の基礎を築いた。原告の先祖の功績はまことに多大である。しかし、このことと河川敷地の所有権の帰属とは別個の問題であり、提出された証拠を検討しても、原告らが現在、本件河川敷地の所有権を有するものとは認めることはできない。よって原告らの請求はいずれも棄却する」という内容でした。

最後に、土地の所有権について、わたしが思うことをキーワードでまとめて終わります。

○ある土地が誰のものであるかということはどうして決まったのか。 [太閤検地] → [検地帳] → [田畑の流通]

○現在の土地所有制度は明治初年に成立したとされるが、それは江戸時代における人々の土地に対する関わり方とどうつながるのか。 [地租改正] → [官有地と民有地]

○権利を立証するための証拠は～ [古文書類] → [書証]「安井家文書」大阪市の博物館

<参考文献> 「道頓堀裁判」 牧 英正著 岩波新書 1993.7.5 発行

友の会トピックス

1.友の会の震災義援金について

すでにお知らせのとおり、友の会の皆さまからお寄せいただきました、あたたかいご支援金 10 万円は、陸前高田市古文書研究会へ、お送りさせていただきました。ご報告させていただきます。

2.今後のイベントスケジュール

- ◎8月20日(土) 別ページのとおり、毎年恒例、さきたま史跡の博物館で開催の「最新出土品展」で昨年度に県内で発掘された現場で見つかった話題の遺物の展示を見て、妻沼へ足をのばし、このたび、7年にわたる大規模改修が終わった聖天山歓喜院の壮麗な彫刻を拝観させていただきます。そのあと、利根川を渡って、太田天神山古墳へ。毛野の勢力との対抗上、さきたま古墳群が造られたという説もあるのを、確かめるチャンス！
- ◎9月18日(日) 3月に惜しくも中止となった大塚初重先生の「邪馬台国・纏向遺跡・箸墓古墳」の講演会です。最近、様々な遺物が発見されている纏向遺跡ですが、これで邪馬台国の所在地論は「キマリ」となるのでしょうか？ 聞き逃すと大損ですよ。
- ◎10月1日(土) こちらも3月開催の予定でした中川和明先生の「武蔵の国学者たち」の講演会です。江戸時代末期に、県内いた国学者たちにスポットをあて、歴史の闇に埋もれた、彼らの思想と動向を解明する、友の会でないと聞けないお話です。
- ◎11月13日(日) 千葉県芝山町で行なわれている「はにわ祭り」のイベントを見て、そのあと、友の会「関東の風土記の丘を見る」シリーズの最終回「房総風土記の丘」へ回ります。竜角寺の白鳳仏が拝観できるかも？
- ◎12月 講演会「中世を道から読む」 詳細未定

3.博物館のイベント

- ◎7月16日(土)～8月31日(水) 企画展「あそび漫遊」
- ◎8月7日(日) 影絵グループ「あけびの会」による公演
- ◎10月8日(土)～11月27日(日) 開館40周年記念・特別展「円空 ころろを刻む」
- ◎10月30日(日) 上記関連・記念講演会「埼玉の円空仏」 林 宏一氏 9月1日から申込み開始

4.暑いときは、博物館へ行こう！ ころも身体もリフレッシュ！

◎県立・川の博物館 048-581-7333

7月16日(土)～9月4日(日)企画展「ひやっとコオリ～水と氷のフシギ」

◎さいたま文学館 048-789-1515

7月23日(土)～9月11日(日)テーマ展「戦後の児童雑誌～なつかしの学習雑誌、面白かった少年・少女雑誌」

◎埼玉県平和資料館 0493-35-4111

7月16日(土)～9月4日(日)テーマ展「戦争と動物たち」

7月30日(土)映画会 午前「火垂るの墓」 午後「はしれリュウ」

◎横浜歴史博物館 045-912-7777

7月23日(土)～9月11日(日)企画展「風景を伝える 持ち帰る 絵はがき あれこれ」

◎神奈川県立歴史博物館 045-201-0926

6月11日(土)～7月31日(日)特別展「チャールス・ワーグマンが見た海～洋の東西を結んだ画家」

◎群馬県立歴史博物館 027-346-5522

7月16日(土)～9月18日(日)企画展「関東戦国の大乱」

8月7日(日)シンポジウム13:00～ 事前申込み要

7月24日(日)と9月11日(日)13:30～ 関連講演会 事前申込み要

◎東京国立博物館 03-3359-2131

7月20日(水)～9月25日(日)特別展「空海と密教美術展」

7月12日(火)～10月2日(日)特集陳列「運慶とその周辺の仏像」

6月7日(火)～8月28日(日)特集陳列「よみがえるヤマトの王墓～東大寺山古墳と謎の鉄刀～」

友の会からのお願い

☆講演会のお申込みは～往復ハガキ ☆見学会のお申込みは～通常ハガキ <お断りしない時はご参加可>

☆友の会をお手伝いいただくサポーターさん募集中 詳細は土日祭の「友の会」受付でおききください

前号オリコミの「江戸里神楽」公演キップは夜の部のみ、まだ発売中。Yfe78576@nifty.comへ。

出土品展・妻沼聖天・太田天神山古墳

行田のさきたま史跡の博物館で開催の出土品展で、昨年、県内で発掘された出土品を拝見し、修復なった「埼玉の小日光」妻沼聖天院を拝観。そして、こんな機会でもなかったら、なかなか、行けない群馬県太田市の天神山古墳。全長210Mは天皇陵クラス。東日本の古墳では最大の大きさです。こんな大きい古墳が、なぜ、群馬（毛野）に出来たのか。古代ロマンがたっぷり、味わえます。

ご案内 駒宮史朗先生（元・埼玉県立博物館学芸部長）

実施日 平成23年8月20日（土）

集合 午前8時・JR大宮駅西口・ソニックビル西側

参加費 6,000円（バス代・昼食代など）

コース 大宮＝行田市・さきたま史跡の博物館＜出土品展見学＞

＝昼食＝妻沼聖天山軟膏院＝太田天神山古墳・女体山古墳＝大宮

◎ご参加のお申込みは、ハガキに住所・氏名・電話番号・会員番号・参加イベント名を明記し、8月10日（水）までに、〒339-0056 さいたま市北区総裁町378-2-702 滝沢由美子へ、会員限定ですが、ご家族・お友達にご参加可。同じバスご希望の場合は連名で、集合場所の地図ご希望の場合は、その旨ハガキにご記入を。◎お問合わせ、間際、当日の緊急電話 040-4139-2740

宮川

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成23年8月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

私が学芸員になろうと思った理由

常設展示担当 主任学芸員 渡 政 和

人にはそれぞれ画期となった事柄があるかと思います。昔食べたラーメンの味が忘れられなくてラーメン屋を開業したとか、子供の頃におまわりさんに助けられたので警察官になったとかおそらく探せばいくらでも出てくると思います。私が学芸員になろうと思った理由もいくつかありますが、今回はその中の一つのエピソードを紹介させていただきます。

子供の頃から美術は嫌いではなかったのですが、小学校の写生大会では先生から「下書きの段階では良いのに色を塗るとおかしくなるわね」とか「お兄さんや妹さんはうまいのにね」とかいわれて美術の時間は余り好きではありませんでした。確かに兄と妹は必ず写生大会で金賞や銀賞を必ず取っていましたから文句は言えませんがね。高校では美術の成績はそれほど悪い方ではなく、美術の授業はかなり没頭していた記憶があります。特に大和絵等には興味があって展示会などにはしばしば足を運んでいましたが、この頃は学芸員の事は知っていてもなろうとは思っていませんでした。

大学生になり、歴史学を専門とするようになった昭和57(1982)年5月、東京国立博物館で開催されていた「久保惣コレクション 東洋古美術展」を見学に行きました。「久保惣コレクション」とは、大阪府和泉市内で綿織物業を営んできた久保惣株式会社の代表者久保惣太郎氏が長年収集してきた美術品のことで、国宝2件、重要文化財27件を含む約500点の日本及び東洋の古美術が中心となっています。現在では和泉市立久保惣記念美術館に収蔵されており、同館では「第一次久保惣コレクション」となっています(同館ホームページ<http://www.ikm-art.jp/>)。この展覧会では「久保惣コレクション」の中から180点を選び展示しており、「伊勢物語絵巻」「駒競行幸絵巻」「山王靈験記」など絵巻物や宮本武蔵「枯木鳴鶉図」(いずれも重要文化財)を見たいと思って出かけていったのではないかという記憶があります。入口から順次見学してゆくと、陶磁器の部屋になりました。展示室中央に展示ケースがあり「青磁 鳳凰耳花生 銘万声」(国宝)が展示されていました。周囲にも陶磁器類が展示されていましたから展示ケースのまわりを一回り見渡した後、展示室を出ようとして振り返りました。すると、何かの光(外光の様な気がしましたが正確ではありません)が差し込んできていたのか「青磁 鳳凰耳花生」が光っているようにみえました。よく見ると鳳凰のいる耳の部分の白い胎土に厚くかかった釉薬が透けて鳳凰の影が黒く、周囲の釉薬が青(実際には緑に近い青でしたが)く何とも幻想的な雰囲気、なんて美しいのかと思いその場で見とれてしまいました。それ以降、陶磁器類の展示やその他の美術品の展示なども積極的に見学にゆくようになり、学芸員になりたいと強く思うようになり、今は実現している次第です。

えっ、誰と見に行ったかだって、そんなことは秘密です(笑)。

あなたのあたたかいお気持ちに対して、陸前高田古文書研究会からお礼のお手紙をいただきました。謹んでご披露させていただきます

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会
会長 宮川進様

此度の東日本大震災に際し、多額の義援金を頂き誠に有難く、厚く御礼を申し上げます。

私共陸前高田古文書研究会は、郷土の歴史を後世に伝えるため、今日まで「気仙郡大肝入吉田家文書」の解説に取り組んでまいりましたが、今回の大津波により事務所として使用していた市立図書館が壊滅的な被害を受け、すべてが流失し活動の継続が危ぶまれておりましたが、各方面から心温まるご支援を頂き、励まされ、再出発をすることになりました。

「吉田家文書」は、江戸時代の寛延3年（1750）から明治元年（1868）までの118年間にわたる仙台藩の郡村支配の実態と、当時の地方の動向を知る上で貴重な史料であり、平成7年岩手県の「有形文化財」に指定されました。この文書を解説し、広く公開することにより、郷土の歴史がより鮮明になることを期待されていた矢先の大震災でした。

今回頂戴いたしました義援金は、会の施設設備の復旧資金として有効に活用させていただき、皆様の期待に応えるよう努力する所存でございます。

貴会のご厚意にたいし会員一同深く感謝をいたしております。

今後益々貴会の発展とご活躍を祈念申し上げ御礼のご挨拶といたします。

平成23年6月28日

陸前高田古文書研究会
会長 萩原一也



同封の写真は、今年の2月12日に長年郷土史の収集・解明に貢献したとして、東海社会文化基金より社会文化功労団体として、受賞された時の会員の記念写真です。晴れがましい席から丁度1ヶ月後に大震災にありました。前列の両端2名と後列の右端の方が亡くなりました。



いつものお願いです。イベントへの参加お申込みは下記のようなイベントスケジュールを発表したタイミングではなく、ニュースの第4面などに申込み要領を掲載して以後にお願いいたします。フライイングは無効です。今後は、往復ハガキには「無効」と書いて返信させていただきます。みんなで「用意！スタート」のフェアプレイ精神でお願いいたします。なお、往復ハガキか、通常ハガキかの区別もご配慮ください。

1.今後の友の会と博物館のイベントスケジュール

〇～8月31日（水） 博物館・企画展「あそび漫遊」

〇9月18日（日） 「大塚初重先生・講演会」 別ページに申込み要領などを発表しました。このニュースで会員の皆さまへ情報を先行公開して、今後、一般にもお知らせする予定です。ぜひ、お早めにお申込みください。満員見込みの講演会です。

〇10月1日（土） 「武蔵の国学者たち」 講師：跡見学園女子大学講師 中川和明先生
江戸時代に県内にいた国学者たちにスポットをあて、彼らの思想と動向を解明するお話です。

〇10月8日（土）～11月27日（日） 博物館開館40周年記念・特別展「円空 ころろを刻む」

〇10月30日（日） 上記関連・記念講演会「埼玉の円空仏」 講師：博物館元館長 林 宏一先生

〇11月13日（日） 見学会「はにわ祭りと房総風土記の丘」

古墳時代の人々の現物？が見られる楽しいお祭りとお祭り、白鳳の道歩き。白鳳仏は見られるかな？

〇12月 講演会「中世を道から読む」 詳細未定

2.友の会の会費について

友の会の会費は例年通り、9月3日（土）以降のご入会の方について、1,000円となります。

3月末までの半年会費という扱いです。このさい、あなたのお友達、お知り合いにご入会のお誘いを、よろしくお願いいたします。

試験的に「ご入会」いただいて、友の会ご入会のメリットを体感していただけるチャンスです。

ぜひ、一声おかけくださいますように～ これもやはり、お知り合いの方からのご推薦がイチバン効果的です。あなたのオチカラで、友の会の会員を増やしてください。お願いいたします！

邪馬台国・纏向遺跡・箸墓古墳

奈良県櫻井市纏向遺跡から続々出土する遺物！邪馬台国の所在地は、これでキマリなのか？

大塚先生に「邪馬台国研究の現状と纏向遺跡・箸墓古墳の問題点」について、お話をおうかがいいたします。お待たせいたしました。3月15日から延期中でした

◎講師 明治大学名誉教授 大塚初重 先生

◎とき 平成23年9月18日(日)

午後1時半～3時

◎ところ 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

<東武・野田線 大宮公園駅下車 5分>

ご 参 加 無 料

◎ご参加のお申込みは往復ハガキに①講演会名②ご住所③お名前④

お電話番号⑤友の会会員は会員番号～を明記して、〒330-0803-

さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友

の会へ。定員(150名)を超えた場合は先着順とし、その時点で

締め切らせていただきます。

<往復ハガキ以外のお申込みは無効とさせていただきます>

埼玉県立歴史と民俗の博物館

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

平成23年9月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

郷土の歴史に親しむ

友の会会員 青木 健 (上尾市)

○歴史も身近なもの

「歴史」は自分と全く次元の異なる遠い存在。そんな気持ちで小説やドラマなどを通じて、歴史の一場を垣間見るほかは、関心を示すこともなく、もっぱら“働き蜂”の典型的なサラリーマン生活を過ごして来ました。

今から40年ほど前、マイホームを得ることになり、かつては追いはぎが出たり、キツネに化かされた一などといわれた地域に出現した新興住宅団地の住民に。新住民の大半は、京浜方面からの「埼玉都民」で、間もなく自治会が誕生。しかし、お隣り同士はもとより、近所の商店や土地の様子も不案内。そこで、まずは居住者名簿を作り、生活に不可欠な周辺の商業施設の広告や、公共機関などを掲載。さらにミニ新聞の住民だよりで、地元について紹介することに。余暇を見つけては市役所や図書館などへ出かけたり、周辺に住むお年寄りたちから色々な話を伺ううちに「その気になれば、歴史も身近かなもの」と気がつきました。

○五十の手習い

しかし、その後は再び働き蜂に戻って20年余、そろそろ人生の先が見えてきた頃、仕事とは全く違ったものを…と考えたとき「そうだ、地域の昔を調べてみよう」の結論に。

少しは暇が作れるようになると、公民館の郷土史講座や見学会などにも参加して、近くの寺社や、路傍の石仏に刻まれた道しるべなどを調べてみると、地域に根づいた歴史が浮かび上がります。同好グループに加わって、周辺地域や近県にまでも足を伸ばすと、興味も一層深まり、近世から中世以遠の世界にまで広げると、古文書(こもんじょ)にも出会います。資料として活字化された文章は理解できても、筆字の間に宿る当時の息吹きは、やはり原文を直接読まなければ感得できず、「五十の手習い」で、カルチャーセンターや、各種の通信講座などで、古文書の勉強が始まりました。

○石の上にも27年

読めない、分からない、難しい…。テキストと睨めっこするうちに目は疲れ、やがて睡魔に誘われて…。古文書の勉強は何回ギブアップしかけたことやら。それでも先生方による、様々な詳しい解説によって理解も深まり、少しばかり読めるようになると、色々な文書を読みかけますが、どうやら読めない文字のほうが多かったです…。何度も何度も読み返し、前後の意味などから分かった時の嬉しさは、まさに有頂天。「石の上にも三年」とか。五十で始めた手習いも、喜寿を迎えた今年で27年目。生きているうちは生涯現役。

もう暫くの間、歴史を楽しませていただきますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

友の会トピックス

1.今後の友の会と博物館のイベントスケジュール

○9月25日(日) 「日光御成り街道イベント」 詳細は別ページをごらんください。

友の会では、日光御成り街道に焦点をあて、岩槻の歴史を別の角度からみていただく意図で、ただいま、ビデオを製作中です。その試写と講演会などのイベントを開催いたします。会員の皆さまのご来場をお待ちしております。

○10月1日(土) 「武蔵の国学者たち」 講師：跡見学園女子大学講師 中川和明先生

江戸時代に県内にいた国学者たちにスポットをあて、彼らの思想と動向を解明するお話です。

○10月8日(土)～11月27日(日) 博物館開館40周年記念・特別展「円空 心ころを刻む」

○10月30日(日) 上記関連・記念講演会「埼玉の円空仏」 講師：博物館元館長 林 宏一先生

＝申込み受付・開始されています。博物館へお問い合わせください＝

○11月13日(日) 見学会「はにわ祭りと房総風土記の丘」

古墳時代の人々の現物？が見られる楽しいお祭りとお祭りとお祭り。白鳳の道歩き。白鳳仏は見られるかな？

☆博物館のミュージアム・トーク <参加当日受付・先着30名・13:30～14:00>

☆9月17日(土)「お地藏様に烏居？」

☆9月18日(日)「古墳について」

☆10月8日(土)「中世のお金」

☆10月9日(日)「円空 心を刻む」

2.友の会会員増強に、あなたのオチカラを、さらにお貸しください！

会員の皆さまには、友の会の良さ、メリットについて、十分にお分かりいただいていることと思います。

2000円(9月以降は1000円)という年会費で、博物館を応援できて、講演会が聴けて、見学会で史跡をまわられる楽しみ。ぜひ、この良さをお友達に、お知り合いにお伝えいただき、会員増強をお願いいたします。ご加入されているグループの催しの際に、友の会のチラシを配布していただくこともお考えください。チラシや資料をご希望のときはぜひ、博物館内の友の会へご連絡をお願いいたします。

400年前の道

日光御成り街道は將軍さまのための道

日光御成り街道 イベント

平成23年9月25日(日)

☆午前・小学生むけ<午前10時~12時>◎「日光御成り街道の今をビデオで見る」ビデオの上映

◎「岩槻に伝わる昔のお話」つた むかし 民話かたり・いなわ会
◎みんなで秋の折り紙つくりましょう

場所 岩槻駅東口・コミュニティセンター・4階多目的ルームA

☆午後・一般むけ<午後1時半~3時半>◎「日光御成り街道の今をビデオで見る」ビデオの上映

◎講演「日光御成道について」

講師 元・さいたま市立博物館 館長 高山清司さん

場所 岩槻駅東口・コミュニティセンター・3階ワッツルームA

いずれも無料。ご参加お申込みは〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。往復ハガキに住所・氏名・電話番号、午前・午後の別をご記入の上お申込みください。

主催 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

助成：花王・コミュニティミュージアム・プログラム2010

埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会・共催・歴史講演会

武蔵の国学者たち

平田篤胤と門人集団

武蔵国には、三百数十人も平田門人がいました。権田直助（入間郡毛呂本郷）、根岸武香（大里郡吉見村）、鹿子田荒尾（川越藩士）、岩井宅道（氷川神社）、宮西諸助（日枝神社）などが、時代の転換期に多彩な活動を繰り広げています。歴史に埋もれた平田派の思想と運動に光を当て、武蔵国の国学を見直してみましよう。

講師 跡見学園女子大学講師 中川和明先生

とき・平成23年10月1日（土）午後1時半～3時（3月27日予定を延期）

ところ・埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂（東武野田線・大宮公園駅下車・5分）

ご参加無料

お申込みは往復ハガキに①講演会名②ご住所③お名前④お電話番号⑤友の会会員は会員番号を明記して、〒330-080

3さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。

※締切9月27日（火） 定員150名を超えた場合、先着順とし、途中でも締切ります。往復ハガキ以外のお申込みは無効です。

共催・埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会